

新年のご挨拶

新年が明け早1カ月が経過しております。改めまして日頃より、市政の運営に多大なるご理解とご協力をいただいている市民の皆さまに心より感謝申し上げます。

さて、多くの皆さまに応援いただいたおかげで、昨年11月には、九州最大のお酒の生産量を誇った豊村酒造の「旧醸造場施設」が国指定の重要文化財になるという嬉しい知らせがございました。一方で市役所は1月1日より緊張の開始となりました。市は国県等からの情報収集、また海岸近くに住んでいる市民への注意喚起などを行いました。加えて本市の飲料水約5千本を、古賀市、岡垣町と共同で被災地に届け、市民の皆さまから戴いた沢山の支援物資につきましては、最終受け入れ先となる被災地との調整を行っております。今後も引き続き義援金のお願ひ等の対応を継続してまいります。

そうした状況の中での新年、1月7日には「二十歳のつどい」と、福津市誕生以前より70年近く続く市の主催行事「成人祝賀駅伝競走大会」を、ほぼコロナ禍以前の運営形式で開催できたことは、年末年始を跨いでご準備いただきました多くの市民の皆さま、ご協力いただいた自治会をはじめ地域の皆さま、そして市内事業者のおかげでございました。有難うございました。

1月19日には臨時市議会を開催し、さまざまな家庭環境にある子どもたちの支援にご尽力いただいている子ども食堂運営者への支援策などの予算議案を上程しました。また、同じく1月には、昨年秋季の兵庫県西宮の阪急百貨店に続き、博多阪急にて、福津産新商品販売等のプロモーション催事（フクツナフル）を展開するなど、今年も市の魅力とその発信に、磨きをかけてまいります。

結びに、福津市で学び働き生活する我々も、日頃より決して安穩と生きているわけではございませんが、多くの子どもや民間人の命が犠牲となっている武力紛争の胸ふさがれる事実、そして今般の能登沖の大地震と津波被害という現実を目の当たりにすると、市役所を中心とする市の機関こそ、このVUCA（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）の時代に対峙しているとの認識をあらたにいたします。市民の負託に応え信頼される機関であることを肝に銘じ気を引き締めてまいり所存でございます。また、皆さま、本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

慎

んで新年のご挨拶を申し上げます。

本来なら新春のお祝いの言葉から始めるところでございますが、元日に能登半島地震が発生しました。お亡くなりになられた方々に深く追悼の意を表します。そして、被災された方々に心からお見舞い申し上げますとともに、1日も早い復旧に向けて尽力されている関係者の皆さまに、敬意と感謝を申し上げます。

昨年は、長らく続いたコロナ禍の各種規制が順次緩和され、日常を取り戻す年となりました。医療従事者をはじめ関係機関の皆さまの献身的なご尽力の賜物と感謝申し上げます。また、市民の皆さまにはワクチン接種をはじめとする各種感染症対策に、ご理解とご協力をいただきましたことにお礼を申し上げます。

市の人口は平成17年の合併以来伸び続け、平成17年12月末と比較して1万2329人、22%も増加しました。また、昨年1年間で587人もの新生児が誕生しました。

市では、増え続ける児童数に対応するため、新設校の建設計画が進んでいます。子どもの笑顔は未来への希望です。将来、社会を担っていく子どもたちが生まれ育つまちとなるために、市の政策や資源を集中していくことがより一層求められています。

新設校のほかにも、教育環境の改善、人口増加に対応したインフラ整備、デジタル化の推進など、新たな時代への取り組みが求められます。市議会では、市長が提出する議案や一般質問などを通して、それぞれの議員が「全体の福祉向上と市の発展にとってどうなのか」「関係する市民にとってどうなのか」等の視点で審議を尽くし、議決を行っています。今後も更に議会改革に努めていく所存ですので、市議会に注目していただけると幸いです。

今年も辰年です。蒼天に向かって昇る龍のように、一層の勢いで福津市が発展し、皆さまがさらに幸せな1年となりますようお祈り申し上げます。ご挨拶いたします。



福津市議会議員
高山賢二



福津市長
原崎智仁

